十勝川治水

トイトッキ築堤締切

大　正　　昭　和

十勝川を大津川に切り替え

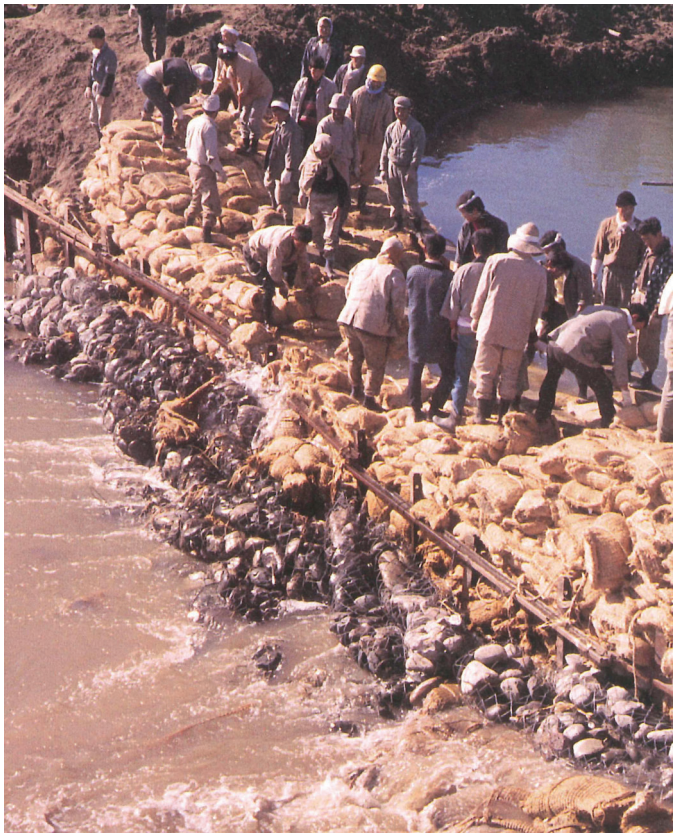
昭和３５年、十勝川は十勝川（浦幌）と大津川（豊頃）の２本に分かれて太平洋に注いでいました。浦幌側の河口、十勝太は長年にわたり洪水に悩まされてきた経緯があり、地元からの強い要望もあったことから、十勝川を締め切る工事を行いました。大津川に流路を変更することで氾濫を防ごうというものです。

サケ、シシャモの遡上等、漁業への影響が懸念されるため、浦幌町、十勝太漁民とのあいだで再三にわたり協議が行われ、課題は残るものの洪水被害の減少を優先しようという結論に達し、十勝川を締切堤で完全閉塞させる運びとなりました。

昭和３５年からは並杭水制工（写真＝左）を実施して流量の減少を図り、昭和３８年の仮締切には土俵約２万袋、延べ８００人が１２日間にわたり従事しました（写真＝右）。

並杭水制工　十勝川・大津川の分流点に施工　昭和 35 ～ 36 年（十勝川写真で綴る変遷）

当時の十勝川河口（出典：国土地理院昭和 44 年発行 5 万分 1 地形図を加工）



土のう等による締切（十勝川写真で綴る変遷）

十勝川の名前が変わりました

現在の十勝川は、当時は大津川（オホツナイ：アイヌ語で深い枝川の意味）と呼ばれていました。

水制工への土砂堆積状況

あらかじめ水制工で土砂等を堆積させ（写真＝右）、矢板、埋土、土俵を使って渇水期をねらって行われた締切堤工事により、流量は大津川：十勝川で７：３に変化しました。あわせて十勝川の名前が変わることになったのです。

当時の地図（左図）をみると、十勝川下流部は十勝川と大津川に分かれて記載されています。浦幌町側の十勝川は現在の浦幌十勝川になり、豊頃町側の大津川は現在の十勝川と呼ばれるようになりました。

浦幌十勝川ではねらいどおり洪水が減少しました。しかし、水量が減ったことで土砂が流れにくくなり、河床には土砂堆積がみられるようになります。この問題を解決するべく計画されたのが浦幌十勝導水路です。

平　成　　令　和　100年